

石海の文化財めぐり

1. 蓮光寺 浄土真宗

天文元年(1532)の創建と伝えられる浄土真宗のお寺で、山号は宝池山。ここの山門は、明治のはじめ、龍野城の鍛坂門(しころざかもん)を譲り受けて移築したものです。村に住んでいた医師が藩主と親しかった縁で譲り受けたものとか。

3. 宮本の道標

天保2年(1831)の秋、先祖の菩提を弔うために建てられた道標。旅人が困らないようにすることで功德を積んで、先祖があのだ世で苦勞しないように、お祈りしたものです。

4. 石海神社

岩見郷の総鎮守社で、舎人親王(崇道尽敬皇帝)をお祀りしています。親王をご夫婦でお祀りしているともいい、社殿の左右に雌雄の松を植えて、夫婦松と呼んでいました。

舎人親王は奈良時代のはじめの人で、日本で最初の歴史書『日本書紀』をまとめました。名前のよく似た崇道天皇(早良親王、桓武天皇の弟。政争に巻き込まれて不遇の死をとげ、御霊になった)と混同されている部分もありますが、この辺りに「崇道」をお祀りする神社が集まっているのは大きな謎です。

神社の本殿は、天保9年(1838)の再建、明治32年(1899)の改築で、柱上の組物の間に、蝦蟇仙人や琴高仙人など、中国の神仙が彫刻されています。祭礼の屋台や檀尻の彫刻の影響があるのかもしれません。

6. 船代のお稲荷神社

元々このあたりは稲荷川原という原っぱで、江戸時代末の弘化3年(1846)に、今の京都府南部からお稲荷さんを勧請してきました。御食都神をお祀りしています。また、天御中主神・罔象女神・五帝龍王をお祀りするともいいます。

15. 吉福八幡神社

吉福・沖代・米田の氏神さまで、応神天皇をお祀りしています。由緒などはよくわかっていませんが、揖保川の対岸にある梶山城の鬼門封じのために建てられ、吉福をその氏子にしたという話もあるようです。

表門は、18世紀前半、江戸時代中頃の建物で、細く端正な彫刻が施され、小規模で簡素ながら、すぐれた建物です。

2. むかしの川の跡

細長く、まわりより低い田んぼが続いています。これはむかしの川の跡。石海地区の田んぼを歩くと、こういう場所があちこちにあります。このようなところは地下水が豊富にありますので、太子町ではこのような所から水を汲み上げて、水道に使っています。

8. 教興寺と天満宮 浄土真宗

かつてここに、徳道上人が建てた蓮常寺というお寺がありました。戦国時代、そのお寺を宗圓というお坊さんが再興し、弘誓山教興寺となりました。西の天満宮のあたりに池があり、白い大きな花を咲かせる蓮がありました。徳道上人が植えた蓮といい、よそへ持って行くと枯れてしまい、ここでしか育たなかったそうです。

5. 宮本武蔵生誕の地

ドラマや小説で二刀流の剣豪として有名な宮本武蔵。その実像は謎に包まれ、生まれた場所もよくわかりません。吉川英治の『宮本武蔵』の「作州浪人・宮本武蔵」のセリフとともに、岡山県美作市大原町宮本の説が有名ですが、ここ太子町宮本で生まれたともいわれています。

江戸時代中頃の『播磨鑑』に「宮本武蔵、揖東郡鰯ノ庄宮本村ノ産ナリ、若年ヨリ兵術ヲ好ミ諸国ヲ修行シ……」とあり、武蔵自身が記した『五輪書』にも「生国播磨の武士」とありますので、いい加減な話ともいえません。

7. 六つグロ

かつて、船代から東の方、田んぼの中にぼこぼこ雑木が茂った塚があり、六つグロと呼ばれていました。グロは、藁や石などを集めて塚のようになったもののこと。古墳ではないかと発掘をしましたが、小石ばかりで遺跡らしいものは見つからなかったとか。石海の里の開墾で出てきた石ころを集めたものでしょうか。

16. 岩見構の皇神さん

岩見構下には、2つ皇神社がありますが、村の西の皇神社は、八街比古・八街比売のお二人をお祀りしています。道の集まってくる所にいて、ムラの中に悪いものが入ってこないように守ってくれる神様です。

17. 蓮生寺 浄土真宗

14世紀ころ、下総(今の千葉県)の熊谷さん(源頼政の子孫)が戦の世をはかなんでお坊さんになり、岩見構のむらの西に庵をむすんだのが始まりとか。その後、村の北に移り蓮界山興照寺(天台宗)といいましたが、15世紀の末、住職をしていた證玄上人が蓮如上人に帰依し、浄土真宗に改宗して、光照山蓮生寺となりました。

9. 立岡山と立岡天満宮

昔、応神天皇がこの山に登って、まわりを見渡されました。天皇がお立ちになったので、この山を御立阜といいます。今から1300年ほど前につくられた『播磨国風土記』に、このように書いてあります。

立岡山の中ほどに、立岡天満宮があります。阿宗神社は、かつてここにあり、岡ノ峯八幡ともいわれていましたが、文治5年(1189)に今の場所に遷られたそうです。

10. 糸の井

今はコンクリートで覆っていますが、以前はたて横2mほどの泉でした。深くはありませんが、この上なく清らかな水で、枯れたことはありませんでした。鎌倉時代に朝日山にいた顕実上人の硯の水だったとか。いろいろの木の葉 流るる糸の井は ゆききの人の しるしとぞ聞く 顕実上人

11. 糸井の荒神さん

市杵島姫命をまつる厳島神社と、スサノオ命をまつる武大神社を合せてお祀りしています。市杵島姫命はスサノオ命の剣から生まれた女神様で、平清盛も深く信仰した戦の神です。スサノオ命をお祀りする神社はいろいろありますが、武大神社は魚吹八幡神社の氏子の村に多く見られます。

19. 線路の跡

太平洋戦争中(70年以上前)に、東芝が工場と国鉄を結ぶために敷いた線路で、浜田の港や西芝の工場まで続いていました。その後、昭和26年(1951)からは北沢産業網干鉄道として運行されていました(昭和62年・1987まで)。JR網干駅南の駐車場に、ここを走っていた小型ディーゼル機関車が保存されています。

18. 薬師庵 臨済宗

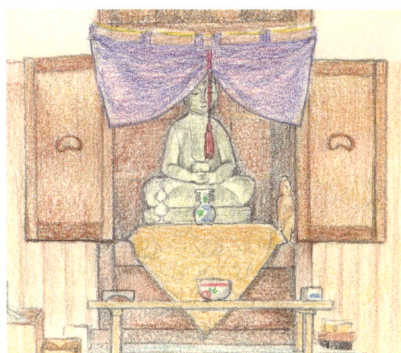
正式には医王山延寿寺といいます。ご本尊は、行基が造ったという薬師如来。龍野藩士の子供の足を即座に治して、信仰が広まったとか。江戸時代後期、肥後(今の熊本県)から流れてきた儒学者がここに住み着き、寺子屋を開いていました。

20. 赤松塚

戦国時代、朝日山周辺でも何度か合戦があったようですが、その時の戦死者をお祀りしているとか。ここに鍬を入れて掘ったり土を取ろうとしたりすると、たたりがあるといわれています。

21. 延命地藏尊

斑鳩寺の地藏堂。天明年間(1781～89)に疫病が流行した時、このお地藏さんにお祈りしたら病魔が退散するとお告げがあり、信仰が広まったといわれています。現在の六角形のお堂は、昭和11年(1936)に再建されたもので、軒下に十二支が彫刻してあります。



立岡のお薬師さん

14. 朝日谷の愛宕神社

朝日谷では、火の神さまの愛宕神社をお祀りしています。昔、大干ばつの時に、愛宕大権現に火揚げをして雨を祈ると、大雨が降ったとか。それから毎年お盆の八月十五日の夜に、この境内で火揚げをしています。(姫路市指定文化財)

12. 朝日山大日寺 真言宗

大化年中(645～650)に法道仙人が開いたといわれるお寺で、本尊は仙人が天竺から持ってきたという千手観音様です。はじめ、法道仙人は、この観音様を家島の堂崎(観音崎)に安置し、ここから空鉢を飛ばして往来の船にお米などの供物をお願いしていました。ある時、いたずら者がその鉢にイワシを投げ入れたところ、鉢の底が抜けてイワシは海に落ち、いたずら者の乗った船は、波間に沈んでしまいました。そのことがあって、観音様は朝日山に遷られたといいます。また、鉢は網干の浜に流れ着き、今も大覚寺に納められています。

本堂の西側にある、五智如来の石像は、戦で燃えてしまった大日寺のために、龍野城主・赤松政秀が寄進したものと伝えられています。

13. 神功皇后船つなぎの岩

太子町周辺には、神功皇后の伝説がいくつも残されています。この大岩は、昔、神功皇后が朝鮮半島の新羅へ出兵したとき、船をつないだのだとか。ほんと？